

「未来を拓く学力」の向上事業

教学指導課

課題

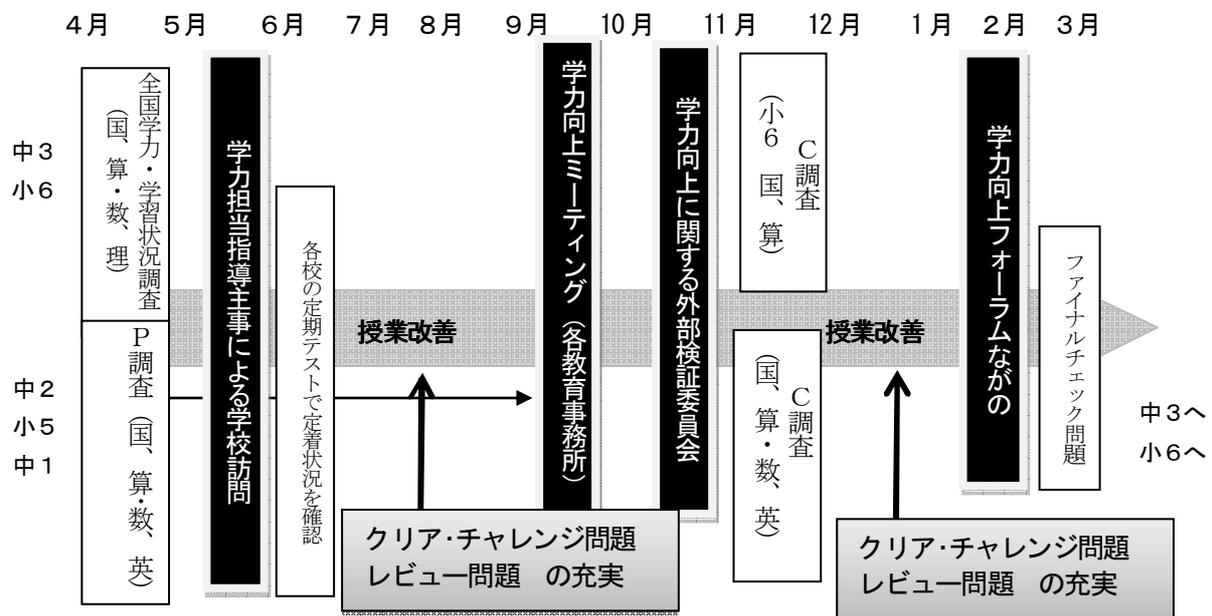
- 中学校において、基礎基本の定着を図ることと活用する力を伸ばすための授業づくりを進めることが、不可欠である。
- 家庭学習の見直しを継続しつつ、小中学校が連携して系統的に学力の定着を図る必要がある。
- 理数の伸びる力を一層伸ばしていくための取組を進めることが課題である。

目指す姿 (指標)

- ・基礎的・基本的な内容の定着度が全国平均より高い児童生徒の割合
小学校…63.7% (H27)、中学校…58.6% (H27)
- ・学習したことを実生活の場面に活用する力が全国平均より高い児童生徒の割合
小学校…59.2% (H27)、中学校…55.1% (H27)

1 学カスパイラルアップ事業

- (1) 学年の系統的指導を強化したPDCAサイクルづくりの再構築
全国学力・学習状況調査(小6・中3)と県独自の学力調査(P調査、小5、中1・2、C調査 小5・6、中1・2)を関連付けて学力実態を把握し、学年の系統的指導を強化したPDCAサイクルづくりを進めます。



- (2) 「学力向上フォーラムながの」の開催
県内全小中学校及び市町村教育委員会、保護者、地域が一体となって長野県の児童生徒の学力を向上させるための機運を高めていきます。

2 新たな家庭学習モデル創出事業

- (1) 新たに「小中連携型モデル校」を指定し家庭学習モデルを構築するとともに、現在の「地域との連携型モデル校」「脱提出ノート型モデル校」と合わせた3つの家庭学習モデルを県下の中学校に普及します。
- (2) 家庭学習シンポジウムや各地区の家庭学習情報交換会を開催、家庭学習に関する情報を発信していきます。

3 学力格差解消に向けた補充的な学習サポートモデル構築事業

地域の方による部活動指導を行うことにより、数学・英語等を担当する部活動顧問が補充的な学習サポートにあたる時間を確保する仕組みづくりを進めます。

4 理数教育充実事業

- (1) S-1グランプリの実施
小中学生が問題作りと解決を通して、算数・数学への関心を高めます。
- (2) 観察・実験出前講座、一流講師に学ぶ中学校理科の実験実技講習会、中学生サイエンスグランプリ実験、観察の講習会を開催し、理科教員の資質向上を図ります。

平成27年度予算額 539万3千円